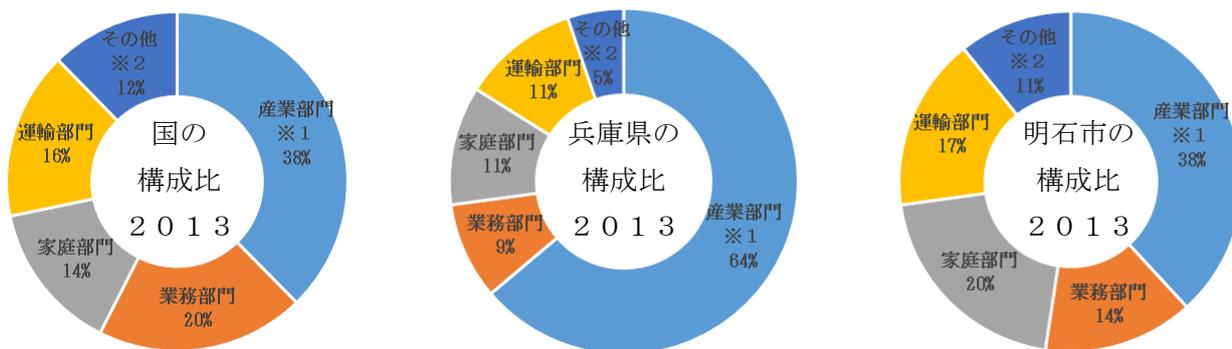


◆国・県との温室効果ガス排出量の比較

1. 国・県との構成比の比較

2013年度（平成25年度）の温室効果ガスの部門別排出量の割合を見ると、明石市では、家庭部門と運輸部門で約4割を占めています。

国の割合を見ると、家庭部門と運輸部門で3割ですが、業務部門では、明石市の約1.5倍程度の割合になっています。これは、第3次産業の割合が国に比べて少なく、住宅地などの利用が多いことによると考えられます。また、兵庫県の割合を見ると、産業部門が国・明石市に比べ2倍弱程度であることがわかります。



※1 エネルギー転換部門を含む

※2 非エネルギー起源二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、代替フロン等

図 温室効果ガスの部門別排出量の割合の国・県との比較（2013年度（平成25年度））

2. 2013年度実績及び2030年度目標の温室効果ガス排出量の内訳と部門毎の削減率

温室効果ガス排出量の2013年度比を見ると、兵庫県の産業部門の削減率が国の約2倍程度となっています。また、国・兵庫県ともに業務部門と家庭部門が約4割程度の削減率です。

部門	国			兵庫県			
	2013年度【実績】	2030年度【削減目標】	2013比	2013年度【実績】	2030年度【削減目標】	2013比	
	排出量 (kt-CO ₂)	排出量 (kt-CO ₂)		排出量 (kt-CO ₂)	排出量 (kt-CO ₂)		
エネルギー起源CO ₂	産業部門※1	530,000	474,000	▲10.6%	47,952	38,489	▲19.7%
	業務部門	279,000	168,000	▲39.8%	6,815	3,822	▲43.9%
	家庭部門	201,000	122,000	▲39.3%	8,364	4,766	▲43.0%
	運輸部門	225,000	163,000	▲27.6%	8,128	5,941	▲26.9%
	その他※2	173,000	152,400	▲11.9%	3,923	3,188	▲18.7%
計 (A)	1,408,000	1,079,400	▲23.4%	75,182	56,206	▲25.2%	
吸収源による吸収量 (B)	—	▲37,000	▲2.6%	—	▲958	▲1.3%	
吸収量含む (A+B)	1,408,000	1,042,400	▲26.0%	75,182	55,248	▲26.5%	

※1 エネルギー転換部門を含む

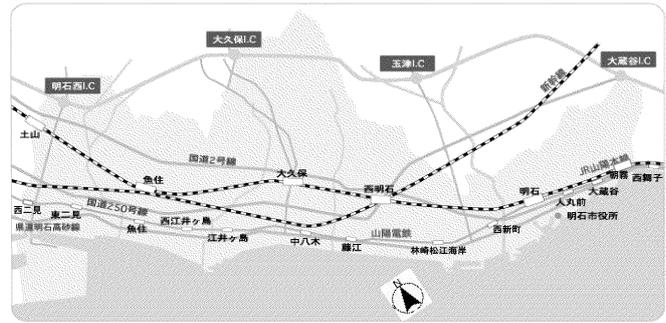
※2 非エネルギー起源二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、代替フロン等

◆区域の自然的社会的条件の把握・整理

1. 地理的条件

明石市は、東経135度、日本標準時子午線上にあって、兵庫県の中南部、阪神都市圏と播磨都市圏が接するところに位置し、東及び北は神戸市に、西は加古川市、播磨町、稲美町と接しています。

市域面積49.42km²、東西15.6km、南北9.4kmで、東西に長い市域を形成しています。

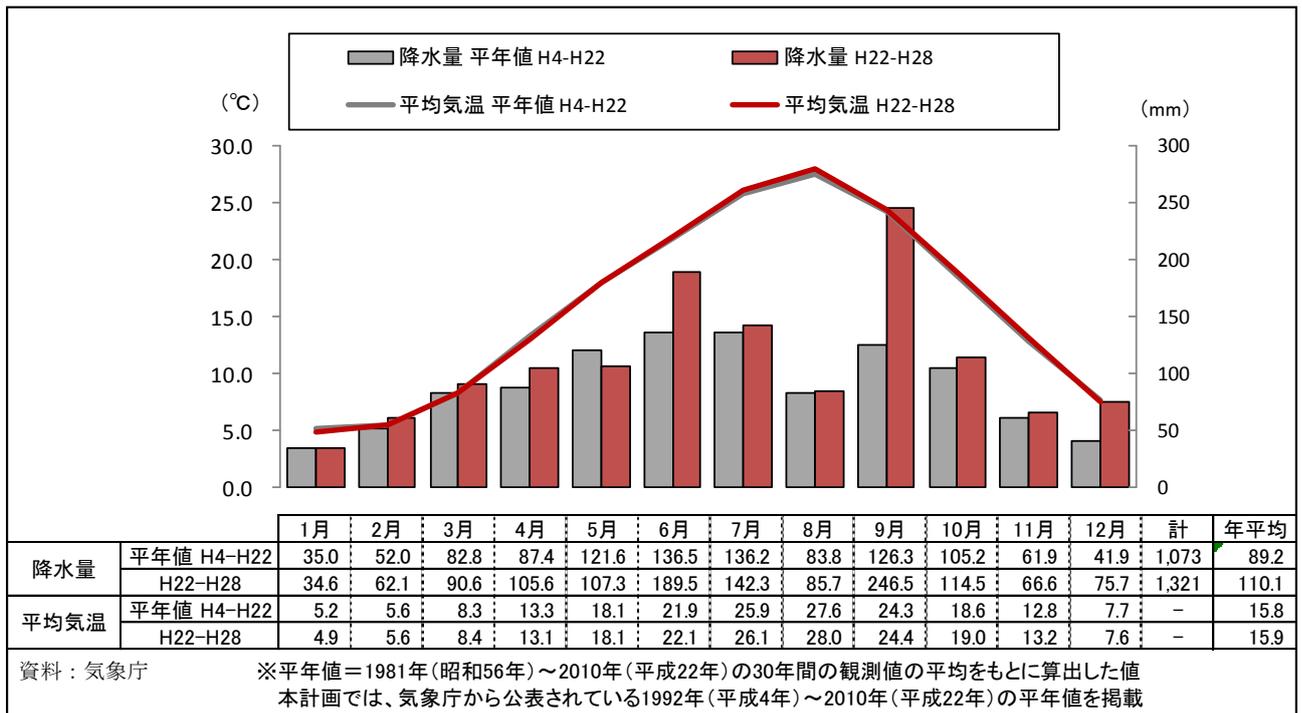


資料：明石市HP

資料：「明石市第5次長期総合計画」

2. 地勢・気候

明石市は、六甲山地西麓に広く発達する広大な段丘面が播磨灘に接する位置に相当し、明石川以西の地域は、いなみの台地と呼ばれる台地上に位置します。平成22年～28年の平均気温は15.9℃、最高35.9℃、最低-4.2℃、年間降水量は約1,321mmとなっています。特徴としては、降水量が全国平均に比べ3割程度少なく晴れの日が多いなど、日照条件に恵まれた地域となっています。



3. 地形・地質

明石市付近の地形は、ゆるやかな丘陵を背にし、海岸線に沿って平坦で帯状の地形を形成しています。

とくに明石川と播磨灘に囲まれた地域の大部分は、いなみの台地とよばれる広大な洪積台地でしめられ、その中の多くの段丘にため池が形成されている特徴的な地形です。

また、地質は、高砂市から明石市まで北西－南東方向に延びる直線的な海岸線に沿って高砂断層という活断層が実在しているとされています。

4. 河川

明石市内には2級河川として、東から朝霧川、明石川、谷八木川、赤根川、瀬戸川、清水川の6河川が、また、普通河川（うち雨水幹線2河川を含む）が9河川あります。

このうち、明石川は流域面積約128.4km²、法定河川延長約21.0km（明石市域内延長は約2.5km）で、最大日量52,000m³の取水が可能な明石川取水場があります。

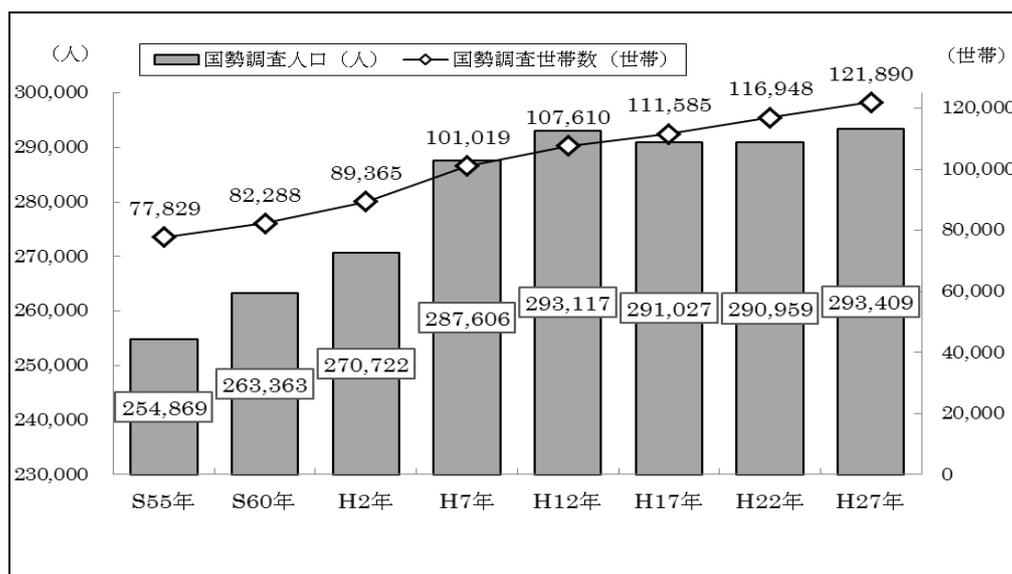
5. 森林

明石市の森林面積は減少傾向にあります。平成27(2015)年度で70haで人工林はなく、天然林が65haと大部分を占め、その他（竹林等）は5haとなっています。林野面積の市域面積に対する比率は1.4%で、兵庫県下では、尼崎市・伊丹市・播磨町（ともに林野面積は0ha）に次いで少なくなっています。

6. 人口・世帯数

明石市の人口は、平成12年以降減少傾向にありましたが、近年は増加傾向に転じています。世帯数は増加していますが、世帯あたり人員は減少傾向が続いており、平成27年で世帯あたり人員は2.41人となっています。世帯あたり人員の減少は単独世帯や核家族世帯の増加が進んでいることが要因と考えられます。

【人口の推移】



	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年
国勢調査人口(人)	254,869	263,363	270,722	287,606	293,117	291,027	290,959	293,409
増加指数(昭和55年=100)	100.0	103.3	106.2	112.8	115.0	114.2	114.2	115.1
国勢調査世帯数(世帯)	77,829	82,288	89,365	101,019	107,610	111,585	116,948	121,890
増加指数(昭和55年=100)	100.0	105.7	114.8	129.8	138.3	143.4	150.3	156.6
世帯あたり人員(人/世帯)	3.27	3.20	3.03	2.85	2.72	2.61	2.49	2.41

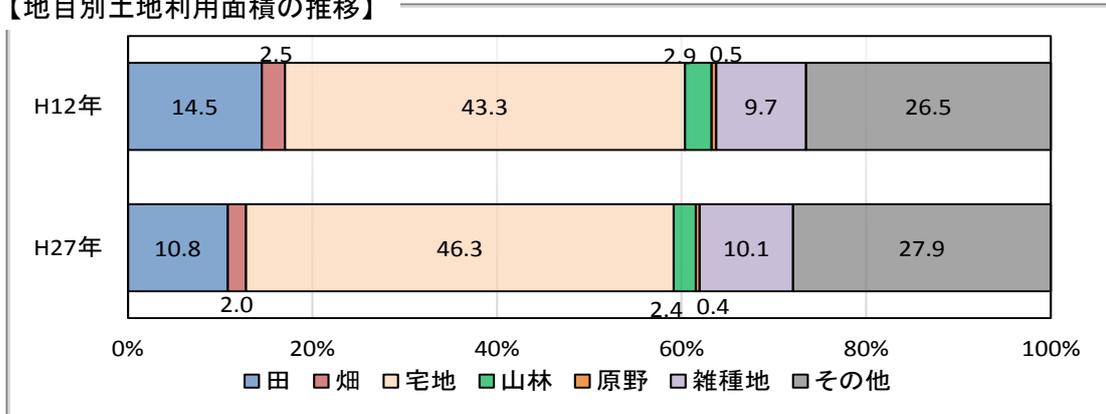
資料：「平成27年度国勢調査結果」（総務省統計局）

7. 土地利用

平成 27 年の土地利用面積の割合を見ると、「宅地」が最も多く、市域の 46.3%を占め、次いで「田」が 10.8%、「雑種地」が 10.1%となっています。

平成 12 年との比較で、「田」、「畑」が減少し、「宅地」が増加しているのは、農地の宅地化が進んだことが要因と考えられます。

【地目別土地利用面積の推移】

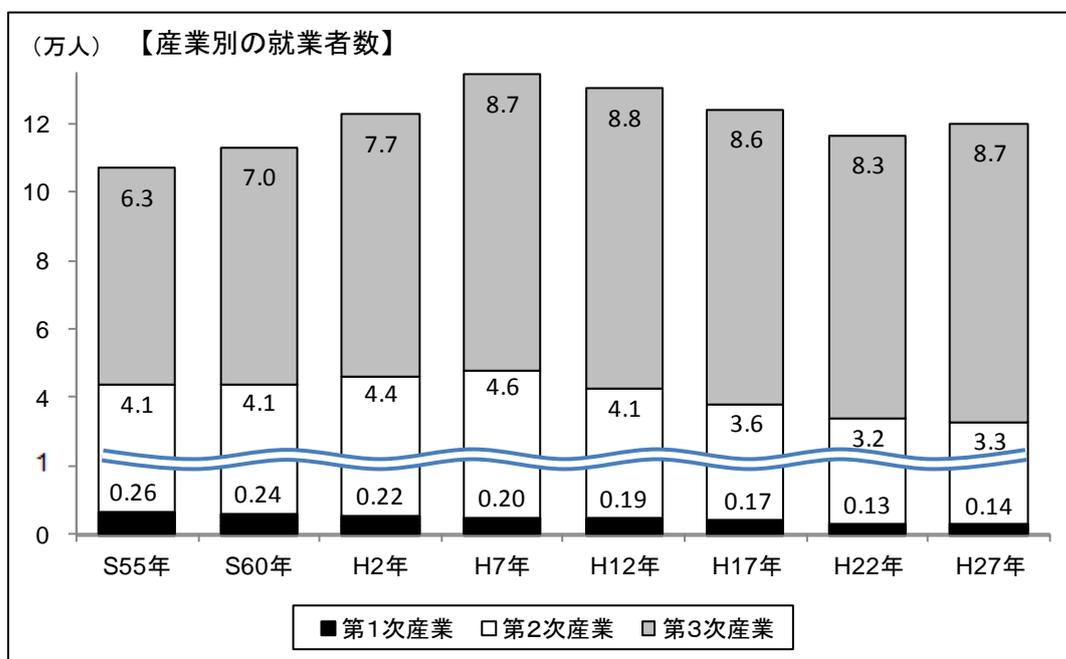


資料：「明石市統計書」（平成 12、27 年版）

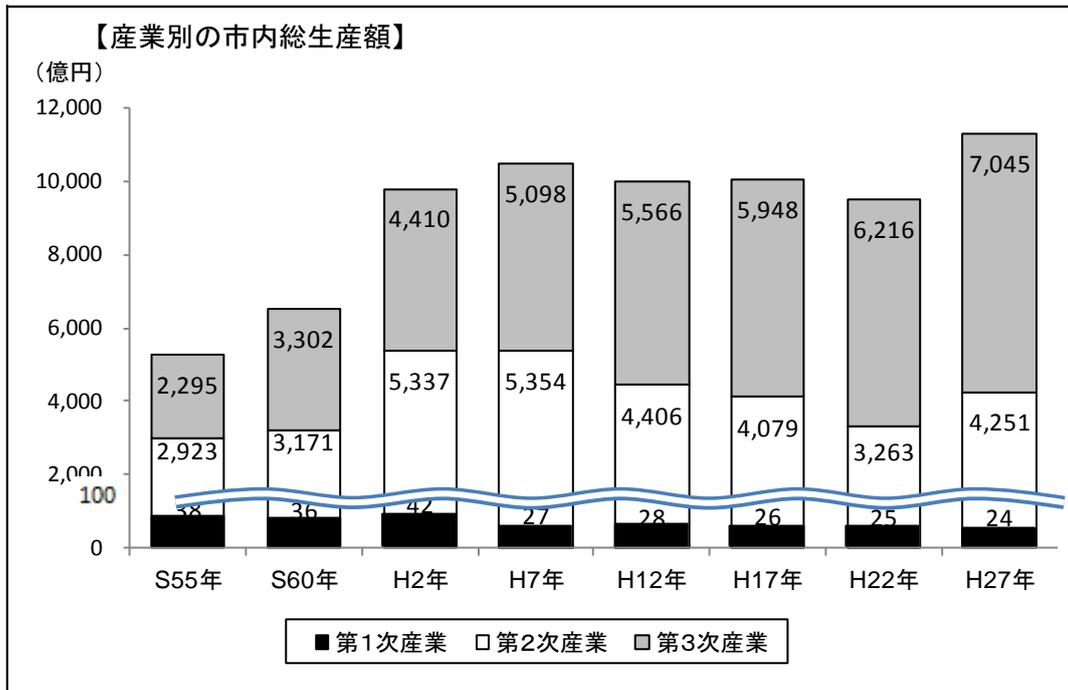
8. 産業

産業別における就業者数をみると、平成 12 年以降すべての産業において減少傾向にありましたが、平成 27 年の調査では、すべての産業において増加傾向に転じています。

また、市内全体の総生産額では、第 1 次産業で若干の減少となっていますが、第 3 次産業は増加を続け、減少傾向にあった第 2 次産業も増加に転じています。



資料：「平成 27 年度国勢調査結果」（総務省統計局）



資料：「市町民経済計算（兵庫県）」※H2年以降は『H17年基準版』算出方法による

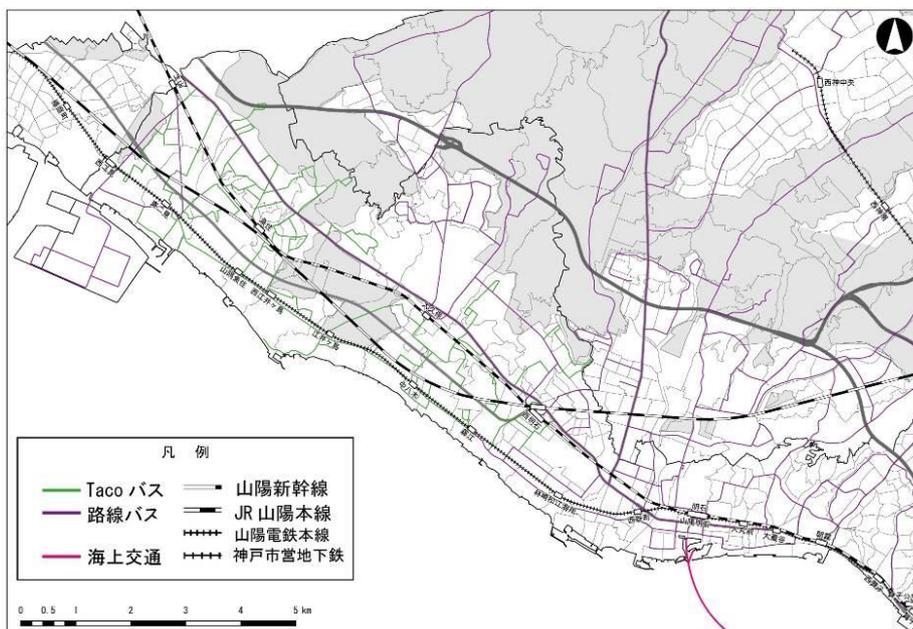
9. 交通

(1) 道路網

明石市の道路体系は、東西方向は第二神明道路と国道2号、国道250号(明姫幹線)、県道718号線(明石高砂線)が中心となっています。南北方向には、隣接市町と連絡する道路のほか東播磨内陸地域との広域的な連絡を担う国道175号があります。

(2) 公共交通機関

公共交通ネットワークは、東西方向にJR山陽本線(5駅)、山陽新幹線(1駅)、山陽電鉄本線(12駅)の3線が通っており、南北方向には路線バス(山陽バス、神姫バスなど)、コミュニティバス(Tacoバス)があります。その他、タクシーや、明石港と淡路島を結ぶ海上交通(淡路ジェノバライン)があります。



※バスについては平成23年3月現在の状況です。

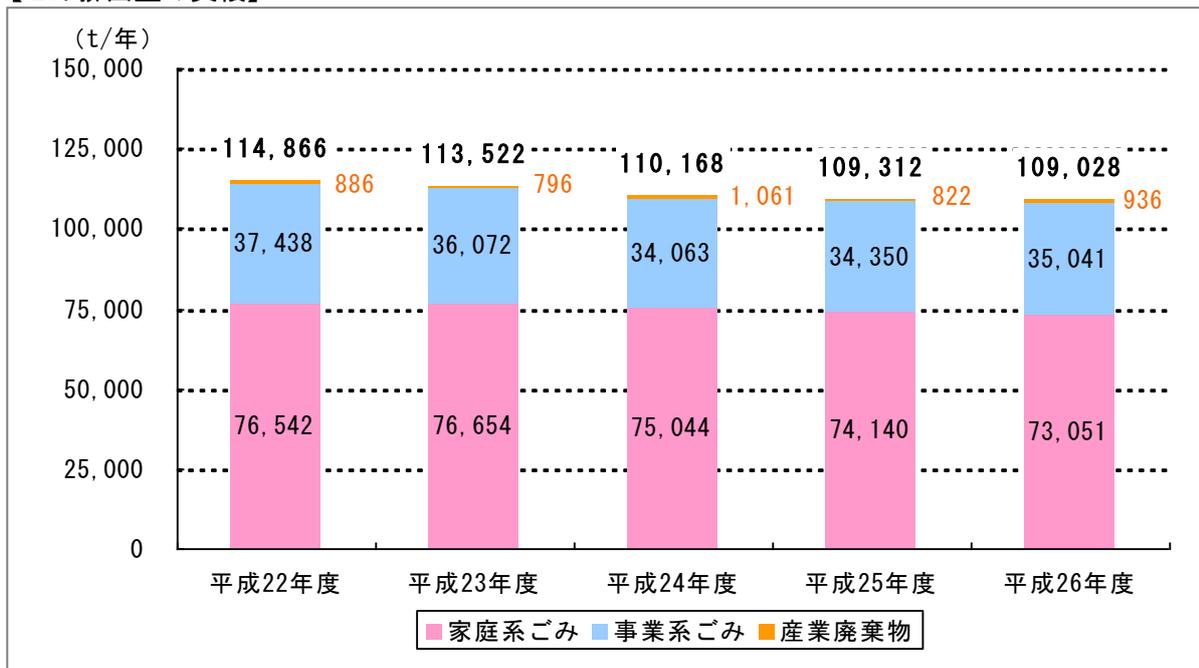
10. 一般廃棄物（ごみ排出量）

明石市の過去5年間のごみ排出量について、全体では減少傾向となっており、平成25年度以降は110,000t/年を下回って推移しています。

また、1人1日あたり排出量等について、総ごみ量は減少傾向となっており、平成26年度では約1,000g/人・日となっています。

さらに、ごみ排出量及び1人1日あたり排出量等について、排出別に見ると、家庭系ごみは減少傾向を、産業廃棄物は増減を繰り返し、事業系ごみは減少傾向を示した後、増加に転じています。

【ごみ排出量の実績】



【1人1日あたり排出量の実績】

